

令和7年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

1. 日時：令和7年6月27日（金）13時00分～14時50分

2. 開催場所：麻生区役所 第2会議室

3. 出席者

(1) 委員

吉松委員長、森副委員長、村井委員、高橋（慶）委員、岡部委員、吉垣委員、玉野委員、佐野委員、依田委員、高橋（由）委員、植木委員

欠席 平井委員

(2) 事務局

藤原事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、雨宮地域ケア推進課長、鈴木地域支援課長、加来児童家庭課長、正木高齢・障害課長、大町保護課長、泉衛生課長、和田保育所等・地域連携課長補佐、田島企画課長、相澤生涯学習支援課長、池田地域ケア推進課課長補佐、麻生地域ケア推進課主任、飯村地域ケア推進課主任

4. 次第

1 開会

事務局長挨拶

2 議事

(1) 第7期麻生区地域福祉計画の令和6年度の評価について 資料1

(2) 各種アンケートの結果について 資料2 資料3

(3) 令和7年度麻生区長寿日本一の取組について 資料4

(4) その他

・麻生市民館の市民自主学級・市民自主企画事業について

3 閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料 1－1 第7期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料 1－2 第7期各区地域福祉計画における評価に係る考え方について

資料 1－3 第7期麻生区地域福祉計画・令和6年度評価

資料 2 麻生区区民アンケート 概要版 （抜粋）

資料 3 川崎市 高齢者生活状況調査 （抜粋）

資料 4－1 麻生区長寿日本一「自分自慢アンケート」

資料 4－2 麻生区幸福アンケート説明

参考資料 1－1 柿生地区社会福祉協議会ニーズ調査

参考資料 1－2 柿生地区社協活性化プロジェクト会議報告 66F8

参考資料 1－3 地域の困りごと、課題調査まとめ

参考資料 2 麻生市民館の市民自主学級・市民自主企画事業について

参考資料 3 令和7年度地域包括ケアシステム講演会について

5. 公開・非公開の別 公開

6. 傍聴者 2名

7. 議事摘録

1 開会

2 議事

(1) 第7期麻生区地域福祉計画の令和6年度の評価について

・資料1-1、1-2、1-3をもとに事務局より説明。

吉垣委員 認知症の件であるが、主任児童委員と行政職員と一緒に学校訪問した際に、行政職員が認知症の事業をお願いしますと、学校にアピールをしていたのが良かった。前にも伝えたと思うが、待つだけではなく、民生委員児童委員協議会の定例会にもぜひ講演会をやっていただけないかと、とアピールしていければよい。

森副委員長 ロバ君倶楽部のマスコットを頂けるという認知症サポーターの研修ですね。各民児協の定例会は月に一度あり、その際に色々な研修をしましょうという提案ができる。ここ2～3年は認知症の研修は開かれていない。以前行われていた時はオレンジリングであった。ロバさんになってからは行われていないので、協議会の方で検討して、各民児協で開催できればと思う。

事務局 地域支援課鈴木です。温かいコメントありがとうございます。日頃から、民生委員、主任児童委員の皆さんにお世話になっており、学校訪問も区内全部の小中学校に地域支援課職員と一緒に回らせて頂いている。認知症サポーター養成講座は区内の学校や、村井先生の大学でも講義させていただいているが、もちろん地域の方に知っていただくのが大事だと思っているので、ぜひとも民協の定例会にお邪魔して開催を依頼させていただけたらと思う。

佐野委員 3番目の認知症のやさしいまちづくりの推進について、認知症の方をお世話しているケアラーに対する支援のような形は別枠でありますでしょうか。

事務局 地域支援課では認知症の支援をしている方を対象とした講座を開いてはいない。どちらかというと認知症基本法の理念に基づいて、地域の認知症の方、そうでない方も含めて、認知症になっても尊重されるような地域づくりを目指している。認知症のケアしている方も一緒に講座に参加して頂いている。

佐野委員 それはまちづくりの推進というカテゴリーであり、一般市民の人に対して、情報提供や、認知症ってこういうものですよという広報啓発的なところであると思う。それとは別の話で、最近、ケアラーに対することが社会問題になっている。認知症に限らず、その高齢になってから奥さんを世話している男性の方など、そういう方たちの行き詰まり感が課題になっている。これに関しては認知症をお世話しているパートナーという形や、色々な意味での、認知症に限らず、精神障害、特定疾患というような方をケアしている方たちへの支援というのも、具体的に福祉計画の中に入れ、どこかで講座を開くということではなく、地域と一緒に、その課題を発掘して、何か手を差し伸べられるようなシステムや制度があるとよい。特に男性の方がケアするのはす

ごく大変で、なかなか自分から発信することができないので、仕事を辞めなければいけないなど、社会問題的にも無視できないようなところもある。いろいろな意味でのケアをしている方達に対する支援的なものを、福祉計画の中で触れられたらと思う。もし、認知症の優しいまちづくりというところで、拡大解釈して、少し入れられるかなと思い、質問させていただきました。その辺の配慮なり、検討課題としてお持ちいただけるとありがたい。

事務局 ご意見ありがとうございます。ご家族や支援者のサポートという視点についても、今後事業を続ける中で、施策、事業内容などを考えていければと思う。

依田委員 質問と提案ですが、まず質問として、この重点施策の形にはなっていないが、地域ケア圏域を設定した後の活動の進捗について、せっかくエリアを設定されたのだから、圏域にどのような変化があるのか、報告があるとよい。それからもう1つは、認知症のことであるが、SOS ネットワークの事業で、元々これを立ち上げた時に、検索まではできない、事前登録して情報を横に流すというところまでは作ろうというのが、20年、30年前の当時の話。他の地方自治体だと、検索までどうやって地域で見守っていくか訓練したいという動きがあったが、それは川崎市ではあまりされていなくて、このままで止まってしまっている。毎回報告数が少ないと言っているうちに、機器ができて、認知症の方をケアする上ですぐに発見できるような仕組み、福祉機器を身につけていращやるのではないかと思うので、その辺りの現状を把握して頂いて、この SOS 事業そのものが本当にどのような形で発展あるいは改善が必要なのか検討する時期にあるのではないかと感じた。ここでの報告は目標に対して去年より2件増えているとあるが、全体像からみたらすごく小さな結果だと思うので、ぜひ検討いただきたい。また、RUNTOMOについては、行政のサポートを受けながら、企業の協賛もいただき、区長にも毎回挨拶もいただいていた強い力になっている。今後ともよろしくお願いできればと思います。

岡部委員 令和6年度の評価については、全ての項目についてほぼ達成、内容としては良かったと思いますが、この達成についての評価の仕方、目標に対して、どの程度できたから達成となるのでしょうか。この中には回数と参加者は記載してあるが、そもそも目標は記載あるのでしょうか。また、主催者側が自己評価している形であるが、区民の方はどのように受け止めているのか、その辺の評価も、後でアンケートを見るかと思うが、その辺の考え方は今後どのように盛り込んでいくのでしょうか。

事務局 この表は結果を記載しているので、各取組の目標については、福祉計画の冊子の内容の中で触れられており、具体的な事業目的については、各取組の要綱や事業の概要等にそれぞれ記載をしている。区民の反応をどう記載していくのかという点は、こちらは難しいところで、何回やりましたということは記載できるが、区民からのその反応という話は、例えば講座後のアンケート等が出てくると思うが、それをどのように客観的に示していけばよいのかという点は、これはかなり課題があると思う。皆様と話し合いながら、次の計画では、区民の反応も含めた形で掲載していければと思う。

村井委員 学識として総括させていただきます。まず3の全ての目標をほぼ達成ということであるが、このほぼ達成というのは、行政の計画ってというのは、仮にやりすぎても、本来の業務を除いて他の事業が疎かになってしまう可能性もあるので、ほぼ達成というのはある意味では最適解という形になる。皆さんの評価が、なぜ5ではないのか、なぜ4ではないのか、と思われても、逆に言えば、3がある意味をバランスのいい結果という風にみるのが評価する上でのポイントである。その上で、令和5年度と令和6年度の取組状況が両方の記載があるが、計画上の目標はここには載っていないので、計画書も一緒に見ていかないといけないと感じている。事務局に確認したいのですが、ここに載っている数字は計画書の中に全部掲載されていましてでしょうか。それとも、計画書にはないけど、ここでの評価ポイントにされているのか、確認させてください。

事務局 計画書の中には、重点項目の中で数字目標を掲げたもの以外は掲載されていません。

村井委員 やはり大事なのは、計画の初期から達成目標を設定して、そこがどう推移したかというのは見守らなければいけない。ただし、もう1つの大事なところは、5年度と6年度が基本同じ項目に近いという点。5年度にやれていたことが6年度に下がっているような急激な変化がなければ、十二分にその事業として安定した動きができていと思う。この取組から、結果的にアウトカムと呼ばれる、どういう結果を地域に実現したかという点で言えば、この一番左の重点的取組の項目名、例えば一番上の地域活動の参加につながる取組の推進にどのように繋がったのかというところが答えになってくる。ある意味でいえば、真ん中のところに評価として言語化していく必要が今後もあるということである。一番上のそれぞれのアンダーラインが引かれているところを総括として読み込んでいただければと思う。健康づくりのボランティアや講座の開催、地域デビューに関する周知、区民に対して地域活動に参加を促す機会を幅広く多岐に行うことができた。まさにそれが地域活動の参加につながる取組の推進につながったということで、その根拠が両端にある5年度と6年度の両方の数値。これがエビデンス、いわゆる根拠の情報として位置付けることができたということになる。そのように皆さんもご評価いただけるといいのではないかと思います。その意味でいえば、それぞれの活動については大変目標を達成できているのではないかと、私も共感するところだと思っております。もう1点だけ皆さんにと共有したい、事務局にも確認させていただきたい点がある。資料1-1の中で、同じような評価をした中で目標を上回って達成したとか、目標を下回って達成したものは重点項目ではありませんが、何らかの形で、いわゆる3ではなかったものがあったか、なかったかというのを伺いたい。やはり私達としてもそこは確認をした上で、市民として協力できることは協力し、そして達成できたことについてはますます誇りを持って進めていくというようなコントラストをつけていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。1-1の中で下回ったり上回ったりしたものがあれば教えていただきたいということです。それをもって、最終的な皆さんと情報共有と私の評価とさせていただきたいという風に思っております。いかがでしょうか。

事務局 資料 1-1 の中で特に上回った部分との話ですが、やはり重点項目の取組になってしまいが、認知症サポーター養成講座、認知症にやさしいお店、地域情報交換会の回数の増加が際立っている。その他の取組ですと、計画が変わりましたが、令和 6 年度になって追記した内容として、35 番の災害時要援護者避難支援制度の欄で、6 地区民生委員及び協議会合同災害委員会が昨年度から実施されているのが、大きな動きとしてあります。また 37 番の防犯への対応力の強化として、ワンワンパトロールの登録者数が伸びています。今後は、1-1 で重点項目から外れている取組についても注視して記述していきたいと思う。

村井委員 2 点の評価ポイントがある。つまり、重点のところはしっかりと評価しなければいけない。しかし、他のそれぞれの事業にも基本目標に対して取組があるので、その中で予定よりもなかなか進んでいないというところ、行政としても悩んでいるところは、この会議で、どうしたらいいのだろうと、みんなで一緒に考え、個人の意見を出しながら行動していければと思う。一方で、行政として非常に誇るべきところというのは、皆さんの協力をいただいて結果が出たというところ。その両面を育てていき支えていく、そのような形で計画推進を議論していければと思う。また先ほど伝えた通り、計画書に記載しているところについてはしっかりとモニタリングしていきたい。項目出しのところで何かアンダーラインを引いていただけると計画書の推移を見ることができるので、よろしくお願いします。

(2) 各種アンケートの結果について

- ・資料 2、3 をもとに事務局より麻生区区民アンケート、川崎市高齢者生活状況調査について説明。

吉松委員 長 昨年は柿生地区社会福祉協議会でも、柿生地区社協活性化プロジェクトで地域住民のニーズ調査を行ったと伺っているので、ご説明いただければと思います。

依田委員 資料について、参考資料 1-1 は速報版。1-2 はなぜ調査をしたのか。調査の結果を受けてどのようなことをしていくのか。1-3 は質問項目ごとの分析が掲載されている。1-1 の速報と 1-3 の最後についているエクセル表を合わせてみると全ての項目の集計結果を数値としてみる事ができる。先に、なぜ柿生地区社協がニーズ調査を実施したのかをお話したい。まず 1-2 をご覧ください。以前から、柿生地区社協とは何だろうか、参加をしながらもネットワーク事業の意義がわからないと、私が研修担当の役員を引き受けた時に、会員からそのような声を多くいただいた。10 年近く、その答えを探ってきたものの、全国の動きをみても、どれが地区社協の正解かというのは難しいところがあった。そして、地域福祉計画で地域ケア圏域が設定された際に、麻生区には地区社協が二つしかないことから、他区のような地区社協単位ではなく、民生委員のエリアを活用するという事となり、麻生区はこのままだうなっていくのだろうかという問題意識を持っていた。この会議がきっかけとなり、村井先生のアドバイスを伺っている中で、圏域単位の福祉をよく知っているのは村井先生ではないかということで、地区社協の研修会に招いた。研修会で地区社協の役員も手ごたえを感じたようで、既存のやり方ではなくて変わらなければ、という動きにつながった。村井先生にブロック単位の活動をどうすればいいのか相談したところ、地域ニーズをきちっと捉えて、そこから出発しなければいけないとアドバ

イスを頂いた。この二年間ゆっくりだけど準備と調査、まとめまで到達できた。それが本日お示ししている資料である。参考資料 1－2 の内、活性化プロジェクトの提案書をご覧ください。調査工程の実施であるが、ここには掲載されていないが会員に対しても調査を実施している。3,932 世帯のうち、回収率 25.4%。結果を述べると、広報活動の不足、若い世代を含む人材確保、地区社協の役割の理解、実践にばらつきがある。地区社協の活動である子育て、高齢者等テーマ別の 5 つの委員会の活動は見えるが、それ以外の活動が見えにくい。生涯学習のニーズが高く、福祉、趣味、教育、日常生活の講座が望まれている。相談できる場所の情報の不足。地域でのつながり居場所づくりのニーズが多くある。こちらは記述欄に多かった。最後に回答数自体は多くなかったものの移動支援のニーズが記述欄にみられた。今年 5 月の総会を通じて、結果を受けて今年度から取組を始めましようとなった。課題への対応として広報活動の充実として、若者に見てもらうためにホームページ、SNS にチャレンジすることになった。人材確保についての具体的な取組はこれから本格化する。地区社協はボランティア募集を出したことがなかったので、地区社協の加入を促進していくこととなった。また、地域ケア圏域活動の重要性の理解が不足しているので、麻生東地区社協や区社協と連携しながら強化していきたい。5 委員会の活動を継続すると記載したのは、今まで行われてきた活動を否定されたような感じに受け止められてしまうのは本意ではないため。確かに地区社協の活動としてはどうなのかという指摘もあるが、5 委員会はとてもよい活動をしている。これからもきっちりやると、会員にメッセージを送った。すぐに取り組みたい事業として、多世代型サロンづくりとして、調査地域に地域拠点を育むようなサロンを開いていく。また福祉講座を実施する、これはニーズ調査からテーマを探していく。加えて、連携しながら近隣サロン交流会を小さな単位でやっていく。今年できるところから始めていきたいと思います。1－1 をご覧ください。あなたがお住まいの地域の町内会は、ということで今回、はるひ野、王禅寺、山口台で実施した。はるひ野、山口台は回答にグーグルフォームを活用した。属性としては、男女比で半々、40 代、50 代の回答が多かった。参加しやすい活動は見守り活動 21.7%、お祭り 20.8% 環境美化 29.5%、趣味習い事 28.9%。情報をどちらから得ているのかの質問では、区や社協のホームページが 4 割であった。あなたは活動に取り組みたいと思いますかの質問では、町内会の協力のアンケートなので、町内会支持の高い方から返信頂いていると思うが、すでに取り組みしている 21.6%、取り組みたい 43.7% と高い数字に驚いた。先のアンケートでも説明があった通り、参加のきっかけがないのではないかと考える。地区社協を知っているかという質問では、名前は知っているが内容は知らないが 36.7% あった。福祉のニーズは、困った時の相談先に関する情報をもっと充実してほしいが 47.6% あった。町内会に協力いただいたので、町内会の資する項目も入れている。参考までご覧いただきたい。1－3 の項目別分析は村井先生によるもの。ボランティアに対する意欲として 47.3% の人が担い手としての可能性を秘めている。Q8 の情報発信と絡めて参加機会を醸成することが大切である。Q13 はこちらも事務局説明のアンケートの結果と同様であった。困った時の相談先は殆ど家族で、あとは知人が少し出てくる。専門的な相談先への繋がりが直接的にはないことが課題にあがった。今後、何を学びたいかという質問項目で得られた情報を元に、福祉講座を地域拠点で展開していきたい。

岡部委員 資料2、麻生区区民アンケートについて、ある程度網羅的に聞かざるを得ないと思うが、地域課題の解決に向けた形、行政として何ができるか繋がるようなアンケートになっているのだろうか、そこが見えない。たとえば満足と不満の質問項目でいえば、バスや電車など交通の便について、住んでいるところによってこのような結果になるのは当たり前である。この回答を元に、不満を感じているところに川崎市のバスの路線を通すのか。しかし全ての区域に走らせたなら赤字になるのでできない。不満の回答が集まっている地域にバス路線を通す。そういうことをあらかじめ想定したアンケートであれば解決につながる。また、同じグラフ内の内容で、行政として努力して頂きたい分野として、高齢者支援、子育て支援、防災、障害者支援等とあるが、不満に感じている方が少なからず出ている。どのようなことに不満を感じているのかを把握し、それについて行政はどの様に対応するのか。そのような解決策につながるアンケートになっているのか疑問である。おそらく概要版ということなので、本体の方は中身が詰まっているだろうが、課題解決に繋がる取組になっているのか伺いたい。

事務局 企画課長の田島です。特定の分野、芸術等に絞ったアンケートは以前にあったが、今回のように網羅的にアンケートを取ったのは初めてとなる。ご指摘のあった満足、不満の項目であるが、居住地別のデータもあるので、この地域では、この項目の満足度が高く、この項目は不満足であったと、数値化して把握することができる。アンケートを取っておしまいでは一番よくないパターンなので、中身の分析を深めるとともに、これをどう施策に繋げていけるのか、しっかりやっていきたい。高齢者支援、障害者支援など、一部の項目については不満の割合が高くなっているので、少しでも減らしていけるよう区役所全体で取り組んでいきたいと思う。まず初めて数値化させて頂いたということで、試行錯誤であることをご承知おきいただきたい。

高橋（慶）委員 麻生区の長寿社会でアンケートも大変結果が良いということで、納得しました。4年間のコロナから、去年今年と少しずつ地域が元に戻りつつあり、今はまだその最中にある。認知症については10年ぐらい前から、福祉計画については村井先生と二十数年と始めのほうから参加していたが、そのころの理想はある程度達成されてきたと感じる。私の親も認知症で引き取って、施設にお世話になったが、そのころから認知症の問題について、地域でわかりあえる、そういう時代になったらいいなという関心を持っていた。コロナが終わった後に地域を見たら、地域包括センターのお世話で施設に入居されていたり、障害を持っているお子様を支えていた母親が認知症で施設に入り、その30代の子どもが家に残されても一人でもやっていけるよう周りの親切で解決されていたりしていた。ただ、大変なのは団塊の世代の60代70代の皆さんだと思う。役員の相談に行くと、ご両親が認知症で病院の見送りなどをしている等の話を聞く。地域には社会福祉の施設、グループホーム等ができていて、1か月に1回のグループホームの活動をみると大変明るい雰囲気であった。柿生地区社協の報告にもあったように新しい時代を迎え、地域も立ち上がっている。これからまたいろいろな問題に関わっていかねばと感じている。

吉垣委員 区民アンケートの概要版の2ページに麻生区の住みやすさを聞いている。「住みにくい」が2.3%であるが、こちらを重点的に見ないといけないと思う。「住みにくい」の回答の裏側には、岡部委員が触れたグラフの中の、買い物の利便性がないという回

答にも繋がっているのではないか。アンケートの自由記載や、少人数のところを重点的にみて、少しでも住みやすい、麻生区に住んでよかったと思えるように頑張ってもらいたい。

村井委員 総括であるが、資料2 麻生区区民アンケート概要ですが、有効回収率の 56.9%という行政のアンケートとしては特筆すべき回答率であった。通常は3割いけばいいというのが実態である。今後もこのような数字が得られるように市民の網羅性を担保できるアンケートを実施していただければと思う。概要版にはフェイスシートがないので、回答者の属性、年齢分布や男女比等があってもいいと思った。後ろに出てくる回答がどの辺りの属性を反映したものか分かるとよい。中身については、これをあさお福祉計画にどうフィードバックしていくのかというのが、一番重要である。現在福祉計画が行っていることの回答の部分もあるのかもしれない。そこを今後の評価として取り組んでいく必要がある。我々が進めている計画のある意味では現状のアンサーになっている可能性があるので、そのアンサーをもって力を入れるべきところ、十分な成果が上がったものっていうのを確認していければいい。不満点に一度着目する傾向がどうしても多くなるが、強みを伸ばすという設定も同じくらいの価値で考えていかなければいけない。というのは、麻生区に住んでよかった、住み続けてよかった、麻生区で活躍していきたいという人達をまずはエンパワメントして力をつけていくのが大事。さらに特筆すべきは10 ページ。柿生地区社協の回答にも似たところがあったが、(3)の参加者が固定しているとの回答。このような会議を開いても大抵同じメンバーになってしまうというのが福祉の課題であり、頑張る人はどこでも頑張っていて、関わっていない人は顔を見る機会がないということで、固定化しているのならば工夫をすればよい。あと1人連れてくれば倍になり、巻き込んだ人もまた連れてくれば4倍になる。私の生涯の最後の研究しようかと思っているが、なぜ担い手になったのですかというところを紐解きたいと思っている。既に1000人程ヒアリングしたが、皆さん誰かに連れてこられた人ばかりであった。皆さんも同じではないでしょうか。気がついたら連れてこられたけれど、声をかけてくれた人はいなくなり自分は残り続ける。まさにあと1人という世界ですが、もう1人連れてくるといことで、よろしくね、と頼まれて抜け出せなくなるケースが多い。でもその抜け出さないというのは、その活動がいかに大事であるということを共感してもらえているということ。参加のきっかけさえ作ってしまえば、共感をしてもらえる可能性が十分あるということを示唆している。だから、きっかけがないと言っている方に対しては、背中をちょっと押して、企画作るからおいでよって誘えばよい。ただ、リップサービスの方もいるので、このあたりをどうしていくのかというものもあるが、いずれにせよ開拓対象であることに間違いないので、誰かわかりませんが、やや強引に連れてくる必要があるのかなと思う。参加のきっかけはイベントでもいいし、お節介であるが既存の活動に連れてきてしまうのがポイントだと思う。またイベントであるとして一回参加して終わってしまうケースが多い。イベントは参加のきっかけであってその後継続するということを積極的に考えなければいけない。イベントの後が勝負である。14 ページ、健康状態についてデータについて4分の3は健康ということで、他の自治体と比較してみると面白いデータである。このデータと、この下の健康のために意識して行っていることというデータは、長寿日本一の裏回答にもなっている

のではないかと考える。エビデンスが見つけれ出にくく苦勞されていると思う。一説によると山坂と言われているが本当に山坂で長寿日本一になるのかということも必ずしもそうではないと思う。ここに答えがあるのではないか。健康意識が高い、それから社会との繋がりも大事と思っている、運動、食事や睡眠をしっかりとやっている方が多い。ただこれは他の自治体と比較しないとわからないので、今後、比較していかなければと考える。資料2の全体については、これこそ圏域単位でクロス集計しないともったいないと感じる。新しい6つの福祉圏域ごとに、それぞれの地区の特性に合わせて、この問題をどう捉えるかと圏域毎に確認し、それが福祉計画に反映されていくことが望ましいと思われる。続いて資料3について、川崎市全体に広げたアンケートで、補完し合っている関係で、外出やコミュニケーションなど、フレイル予防のエビデンスになっている。だから比較的高齢者を意識し、孤立化、5080問題をひっくり返したような回答としても参考になる。7区の中で麻生区が一番よい数字があがっている。僅差かもしれないが、麻生区が一番ということで、これも長寿日本一の答えではないかと思う。会話相手がいて、相談ができて、外出先もある、こういったところが複合的に組み合わされて、今日の状況になっていると感じることができた。ぜひ次のアンケートでも、この数字が落ちないように、本学も少しでも寄与できたら嬉しい。ぜひ麻生区の社会資源として大学の活用を視野に入れていただければと思う。それから柿生地区社協のプロジェクトについては、まず、地域住民の手でここまでやったということを評価いただきたい。つまり専門性のある人達が取り組んだのではなく、全部手作りで本当に丁寧に地域の中で根回しをして、ご意見を頂き、回収し、集計した。集計のところだけは少しプロの手が入ったが、ただそれはやってもらわないと精度が落ちるので必要なことである。頑張っていた内容となっている。麻生区の半分のデータであるから、これも福祉計画にフィードバックしないといけない。ここからみえている麻生の強みや課題をフィードバックする。もちろん地域福祉活動計画の方にも反映させていくことも必要かと思われる。3地域で取っているので、今後、地域ごとのクロス集計をやる予定で、どこかのタイミングで詳細版という形で皆様にお示ししたいと考えている。併せて、本当に自由記述欄に興味深い意見が沢山出ているので、皆さんが麻生区に感じている実感と今回の回答に乖離がないか確認頂いて、計画を今後推進したり、評価したり、次の策定に大きなエビデンス、根拠として反映させていければと思う。なかなかこのクラスのアンケートを地区社協が定期的に実施するのは予算的にもかなり厳しく、二年に一回行うわけにはいかないと思うが、どこかでまたできればいいかなと思っている。そういう意味では参考資料1の右下であるが、先ほどと同じ内容として、「ボランティアや地域活動をしたいと思いますか」について、「取り組んでいないが、取り組んでみたいと思う」が43.7%と、区の方は3割ぐらいですが、こちら方はもっと大きい。仕掛けていくポイントになる。もう一つ気になるところは取り組むたいとは思わないと回答された方々にはどのような背景があるのか。ここまで拒否するというのもなかなか難攻不落なおいもするので、この活動に参加することに対しての危機感というのがどこから来ているのか、それを探るのも、逆に突破口になるのかもしれない。このようなきちんとしたデータがあっても、情報量が多すぎて流れてしまうことが多い。ことあるたびにこれを参考にして、確認と評価のポイントにしていればと思っているので、

ぜひ保存版として、残してくださるとありがたい。また、行政の皆様方の各事業に参考にしていただけることをお願いしたい。積み上げた結果が、今日のこの計画の報告書の中に反映されているというのは事実なので、これからも手を取り合って、行政と地域住民が地域福祉を推進していくモデルとなればいいと思うし、頑張れば住民もやれるということをお見せできたと思う。地域の活動を応援していただいて一緒にやっていければと思う。ちなみに悔しいのは、回答率は低かったという点。根回しの仕方によっては5割6割もあったのかもしれないが、なかなか丁寧に手間をかけないと回収率が上がらなくて、3割を切るという実態でしたが、有効性としては十分なはずなので今後多くの方々に回答していただけるようにしたい。同時に今回これを配っただけで地区社協という存在を認知してもらえたというところで、大事にしていきたいと考えている。

(3) 令和7年度麻生区長寿日本一の取組について

- ・令和7年度麻生区長寿日本一の取組について、事務局より資料4を基に説明。

事務局 前回の会議で、植木委員より質問のあった「麻生区長寿日本一記念事業」という冠の使用について、昨年度は地域みまもり支援センターの事業のチラシで使用していたが、区役所の事業に限定している言葉でも区が許可や認定している言葉でもないもので、地域の団体も使用する方の責任の上で自由に活用いただければと考える。また、長寿日本一記念イベントや長寿日本一記念グッズなど、言葉を変えて使って頂いてもよいと考える。

事務局 今年度の取組の自分自慢のアンケートについて説明したい。昨年については幸せについて質問し、結果をみんなで共有して、その気づきから自分も地域のメンバーであるという意識付けを持ってもらえればと思って実施した。幸せを感じるランキングとして、食事や休みなどを出させていただいた。その中で企画課の区民アンケートでも、幸せについての質問の項目を入れた。区民アンケートの生データがホームページに出ているので、地域別などクロス集計も可能なので、ぜひ皆さまに使っていただければと思う。多くの方に幸せであると答えていただいたが、男性と女性、同居人数別で分けると差が出てくる。女性の方の1人暮らしでは幸せの感じ方に大差はないが、1人暮らしの男性では半分ぐらいが「まあまあ幸せ」「幸せ」という回答で、残りの半分程度がそうではないと出る。年代別にとると特に1人暮らしの30代以上の男性は、幸せというのをなかなか感じられないということで、この対象はよく孤独だとか、繋がりをつくらなければと言われていたが、非常に大きなターゲットであるということが改めて分った。また、家族や友人など相談できる人がいるという項目が多く、また、同居と单身との比較を見ても同居の方が幸せを感じていることが分かった。相談できる人がいないという点では单身で女性の方も多くいる。回答の数が少ないので、これをもってすべてが言えるわけでもないが、階層別でみるとこのような形になる。先ほど高橋委員から麻生区長寿日本一の話があったが、医師の立場で見ると生活習慣病の対策が焦点となる。背景にはアクティビティの流れがあり、元気な80歳を迎えましょうということを、企業、産業界を中心に非常に強く行った結果だと思う。アクティビティの時代は終わり、元気な90歳が当たり前になり、リタイア後の社会が非常に大きい意味を持ってくる。85歳以上女性の85%

は住記上、独身である。中にはご家族と一緒に住んでいる方もいるが、いつ単身になってもおかしくないということで、繋がりづくりを感じてほしいというところである。ただ、繋がり、繋がりというと、どうしても繋がってないことが悪いようで、私1人でも楽しいですという方も中にはいる。そこで今回は自己肯定感に繋げて、プチ自慢をしてみませんか、ということで実施する。みんなで見て、みんな一緒だとか、この地域の人は考えが似ているとか、こんなことを自慢していいの、それなら自分もできる、とアンケートに答えて頂き、自己肯定感のようなもの、あるいは自分もこの地域のコミュニティのメンバーであることを感じていただければよいと考える。学術的な統計データは区民アンケートで集めて頂く。一方、自己自慢のアンケートは軽い感覚で取り組んでいただき、区民まつりや福祉まつりで披露できればと思う。委員の皆様や所属の団体も協力をお願いします。

森副委員 民生委員児童委員協議会の近況をお話したい。資料3の高齢者生活実態調査に関連して、75歳以上になった高齢者の方を対象に調査をしている。コロナ前は訪問で調査していたが、現在は郵送調査である。行政から対象者に調査票を郵送し、回答が行政に戻ってきたら民生委員にフィードバックがある。今年は全数調査であり未回答のお宅は民生委員が7月31日を目途に自分のエリアを訪問する。私の例では、80、90世帯位で、その中で、未回答者世帯が27世帯と、回答率はよかったのですが、協力いただきましてありがとうございましたと回っている。やはり郵送と対面でお話しするのでは、全然違う。調査票の場合、設問だけでなかなかその対象者の方の状況がわからないのは残念なところ。未回答者の方だけではなくて、対象者の人にも回るように自分の会の民生委員には伝えている。そういった形で今、民生委員は頑張っている。

(4) その他

- ・麻生市民館の市民自主学級・市民自主企画事業について

事務局が市民館の市民自主学級、市民自主企画事業を説明後、参考資料2をもとに、植木委員から内容の説明がなされた。

植木委員 「あさお区民記者が走る」の記載の通り、「高齢者福祉のしおり」など、行政で非常にいい助成物をたくさん作っているが、高齢の当事者が果たしてそれを知っているかという、ほとんど知らない。こんな素晴らしいものを行政が作っているのならば、これは皆さんに知ってもらうことが必要というようなことで、「高齢者も楽しく暮らすために」という講座を3回に分けて実施する。この企画については、昨年実施した10回連続講座から「げんきかい」という会が生まれたが、その有志の方がこの講座を企画した。私はサポートをする立場で、本日、説明している。チラシの通り、第1回、第2回とも、行政の高齢・障害課の方に、どんな助成物があって、どんなことをしているのか、具体的に説明をしていただく段取りにしている。第3回は先ほど依田委員が素晴らしい事例を発表されたが、実は支援の裏側には、ある文献の内容がヒントになっている。その文献には、地元の高齢者が5～6人集まり、地域包括支援センター等の担当者の情報提供等があり、色々な意味でワークショップの形式でやってみて、それが定期的に行えるようになればいい、ということが書かれている。今日の依田委員の発表を聞いて、すでにやられているのだなと感心し

た。この講座では、地域包括支援センターはどんな内容でどういうことをやっているのかということ十分に教えていただいた後に、第3回に実際の業務の当事者の方と区民がそこで話し合うような場を作っている。是非、依田委員に参加して頂けると嬉しい。もう一つの企画は「愉しもう 新しいご隠居スタイル」。前回は10回の連続講座を開催し、そこで5つのキーワードに出会った。1つは仲間、2つは会話、3つは笑い、4つは健康、5つは終活ということで、この5つのキーワードはそれぞれ単独ではなくて繋がっていくものであるが、今回は、笑いを主体に5回の講座を企画した。また、先日、認知症の講座を開いてほしいというようなことを認知症支援の団体から依頼があった。まだ私は認知症とは関係ないという具合に啖呵を切ったが、認知症になってから勉強してもしょうがないですよと言われ、なるほどと思って講座を開いた。その講座の中で、面白いから笑うのではなく、笑うから面白いのですよという話を講師から聞いて、今回の講座でも皆さん大いに笑っていただいて、麻生区に、高齢者が楽しめるカルチャーを作れたらと思う。先ほど、参加のきっかけがないという話がだいぶ出ていましたが、講座というようなことではなくて、遊ぼうよという軽いきっかけの中で参加いただいて、地域のほうに一步步足を踏み入れていただけたらいかかということで、この2つの高齢者に対する企画を実施する。ぜひPRをお願いできればということで、本日、紹介させていただいた。

吉垣委員 「高齢者も楽しく暮らすために」の講座は年齢制限があるのでしょうか。

植木委員 一応70歳以上と考えています。

- ・村井委員より、本日の聴講について、福祉の現場を学んでいる田園調布学園大学の学生である旨、紹介あり。
- ・令和7年度地域包括ケアシステム講演会について、参考資料3をもとに事務局より説明。福祉まっりの市民館ホールで開催予定。現在、企画中。

3 閉会

14時50分閉会 （次回は令和7年11月28日（金）13時～ 麻生区役所第1会議室）